

研修Ⅰ 坂綾 学ぶ意味を子供が実感する国語科の授業づくり（2年次）

—付けたい力を身に付けさせるために、

自己を見つめることを促す—

単元 「書き手の意図を考えよう」（教材名「新聞記事を読み比べよう」第5学年）

1 提案の概要

(1) 主張点

- ・ 新聞を読み比べ、見出しや写真など記事を構成するものから書き手の意図を読み取る。
- ・ 新聞を作成するには、「見出し」「本文」「写真」など新聞記事を構成するものから、自分の考えが表れるように言葉や文章を考えたり、選択したりする。
- ・ 「読む」と「書く」の高まりをねらった複合単元とし、事前テストと事後テストを行うことで子供たちの学力の定着を見取るようにした。

(2) 具体的な実践

① 意欲を高めるための導入の工夫（一次）

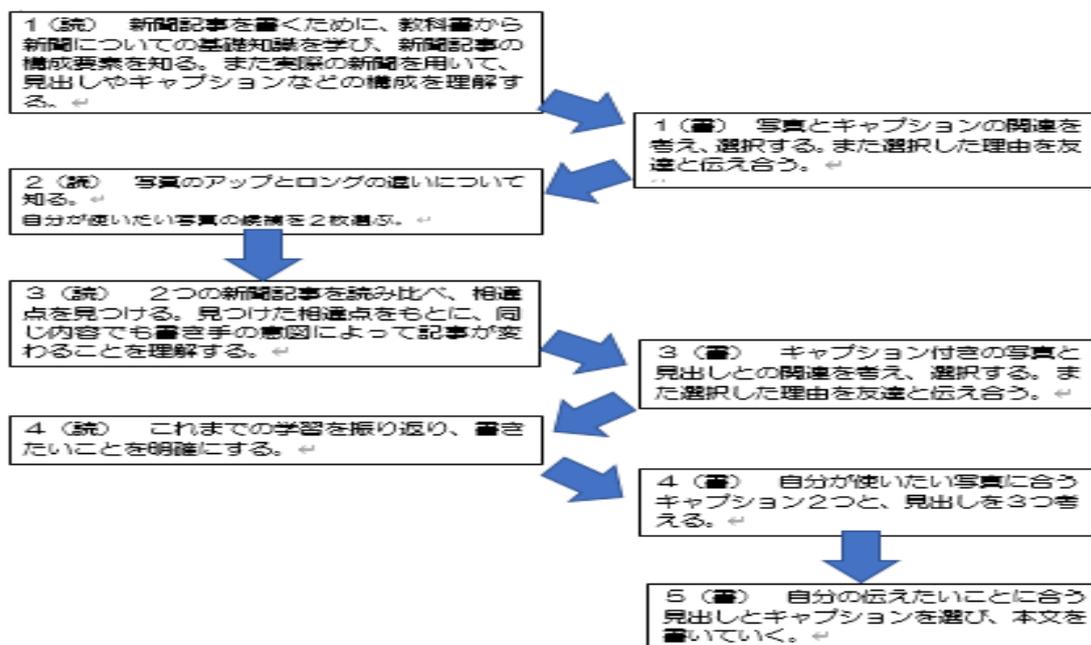
- ・ 4年の時に作った壁新聞と実際の新聞を見比べ、違いに気付かせ、新聞に興味をもたせた。
- ・ 子供たちに、実際の新聞を読ませた。そのとき、多くの子供に興味、関心が高まっていたWBCをテーマに記事を教材化して提示した。

② 思考を深めるための展開での支援（二次）

○ 「読む活動」と「書く活動」の関連付け

教科書や新聞を読んで学んだことをもとに、自分の新聞を書き進めた。また、新聞記事の構成要素となっている見出しや写真、キャプションには、どのような関係があるのかなどを読む必要感が高まった。それを自分の新聞を書くときに、活かそうとすることができた。このことは、友達の新新聞を読んだ際、吟味する観点となり、さらに読む力の向上につながった。

授業の流れ



○ 写真に対するキャプションの選択

あらかじめ教員が、写真に合わせて3つのキャプションを付けておき、写真とキャプションの両方を見て、伝えたいことは何かを想像し、どれが一番ふさわしいかを考えた。その後、選んだ理由を話し合わせた。

○ 写真、キャプションに対する見出しの選択

写真と整合するキャプションを選択したときと同様に、新聞を構成している複数の要素の整合性を吟味する活動を繰り返すことで、実際に自分の新聞を書いていくとき、自分の伝えたいことに一番合う写真や見出し、キャプションを付けるという意識をもてるようにした。

○ 見出し、写真、キャプションの選択、作成

初めから一番ふさわしい1つを作ろうとするのではなく、いくつかの候補を作り、その中から一番自分の伝えたいことを表現しているものを選んだ。

また、本時のグループ活動では、同じテーマを選んだ友達同士で作った新聞を見せ合い、自分の伝えたいことが伝わるかどうか評価してもらい、アドバイスや良いところを伝える活動を行った。

<本時の活動場面>

(ア) 書き手
新聞記事を見せる

書き手
ぼくは、こんな新聞記事を作ったよ。



(イ) 読み手
伝えたいことを予測し伝える



読み手
伝えたいことは、アザラシがかわいかったこと？

読み手
写真からアザラシのかわいさは、伝わるよ。

(ウ) 書き手
伝えたいことを見せる

読み手
見出しからは人に寄ってくるところがかわいいことが伝わるんだけど・・・。



書き手
ぼくが伝えなかったこと、伝わっていた？

(エ) 読み手
直した方がいいところをアドバイスしたり、良いところを伝えたりする

読み手
人に寄ってくるアザラシの可愛さを伝えたいなら、アザラシだけでなく、人も写っている写真の方がいいんじゃない？



書き手
でも、人が写っている写真がなくて困っているんだよね・・・。

○ 本文を書くための支援

本文を書いていくとき、文章を書くことが苦手な児童も書き進められるように、教員も一緒に本文を書いていった。電子黒板に映しながら書くことで、本文の始まり方やどんな内容を書き入れなければならないか参考にしながら書き進められるようにした。

○ 完成した新聞の読み合いと感想（三次）

完成した新聞を読み合う活動を最後に行った。読み合う際には、伝えたいことを整理した紙を見ながら読み、新聞の中に一番伝えたいことが示されているか、見出しや写真、キャプション、本文などの構成要素が合致しているか評価しながら読んだ。また、表現の良いところや良く伝わる場所なども見付け、全体で共有した。

2 成果

- 読んだことをもとに書く、書いたことをもとに読むという活動を繰り返すことで、学びが積み重なり、一人一人がよりよい新聞記事を作成することができた。
- 意図的に写真全体と一部に注目したキャプションを用意しておくことで、写真の注目の仕方によってキャプションが異なることに気が付いた。
- キャプションの選択や見出しの選択といった活動の際、なぜそれを選んだのか理由を話し合うことで、自分の新聞を書くときにもそれらが整合しているか確認し、根拠をもって選択することができた。
- 伝えたいことを整理して写真を選び、見出しやキャプションを選択するというスモールステップで進めてきたことで、子供たちが長い文章を書くことへの抵抗も少なく、むしろ積極的に本文に取り組んでいた。また最後まで新聞を書く意欲が持続した。
- 書きたいことをそのままの言葉で書くのではなく、例えや違う言い回しをしたことでよい表現になったことを見付けられていた。
- この単元で学んだことを使って、「環境問題について報告しよう」の学習をすると、調べたことにまつわる資料を探すとき、報告する内容をさらに分かりやすくする資料を的確に選ぶことができていた。

3 課題

- これまでの積み重ねにより、多くの児童は伝えたいことと本文の整合を確かめながら書くことができた。しかし依然として一部の児童は整合を確かめることなく本文を書いてしまった。そのため、本文のところでもグループで読み合う活動を設定することで、一部の児童ももう少しスムーズに書けたのではないかと考える。
- 見出し、写真、キャプションから伝えたいことを推測する場面で、一部の印象に残った言葉だけで伝えたいことを推測する児童がいた。そのため、その言葉から伝えたいことのイメージを膨らませるよう声掛けが必要だったと考える。